

「高取藩と天誅組」

“その時すでに歴史は動いていた”

天誅組 高取城侵攻

天誅組とは・・・

幕末の文久3年（1863）8月13日、江戸幕府を倒して新しい日本を創るさきがけとなろうと立ち上がった中山忠光を盟主とする尊王攘夷の志士たちである。当時、京都の政局は、尊王攘夷派がにぎり攘夷祈願の為、孝明天皇大和行幸がきまり、中山忠光、吉村寅太郎、藤本鉄石、松本奎堂ら倒幕派同士は、五条代官所を襲撃、代官鈴木源内を殺害、五条御政府を立て、倒幕の旗をあげたのである。

（中山忠光当時19歳血気盛んな青年貴族で後の明治天皇の叔父にあたる）

ところが8月18日士気高まる志士たちのもとに、京都の政局が一変し大和行幸取りやめの報せにより、一転して天誅組は、大儀名文を失い逆賊として追討軍に追われるところとなった。そして、この時天誅組の運命はすでに決まっていた。

高取藩「鳥ヶ峰」にて応戦



天誅組出発の図

大砲炸裂し擊退



天誅組の足取り

しかし、8月26日尊王の志を貫く天誅組は、十津川郷士960人の兵を募り、中山忠光は、約1000名の兵を従え高取城を攻撃、高取藩士 約260名は、城代家老中谷栄次郎総指揮のもと鳥ヶ峰（役場のある丘）に陣を構え家康より拝領の大砲（ブリキトース）六門を据え砲撃し、天誅組は一時ももたず退散した。後刻、吉村寅太郎率いる別働隊が、高取城下に夜襲をかけ焼討ちに出向いたが吉村寅太郎は、味方の銃弾を腹部に受け重傷を負い指揮もとれず逃げ帰ることになった。その後、天誅組は追討軍約一万人に追われ吉野郡内を逃げ惑い転戦したが、

9月24日東吉野村鷺家口にて全滅する。

明治維新へ

天誅組の決起は、幕末における最初の武装反乱でありその後、倒幕運動が活発となり、明治維新への”さきがけ”となり、わずか5年後に明治維新を実現し、高取城は、この歴史的な時に関わっていたのである。

やがて、時代と共に難攻不落日本最大級の山城（高取城）も城明渡しの時をむかえた。現在は、国の指定史跡として往時の威容を偲ぶ石壘が残っている。

